

日本車両 価値創造のあゆみ

創業以来、新幹線を始めとする鉄道車両から橋梁、輸送用機器、建設機械、機械設備まで、130年近くにわたり社会基盤の充実と発展に幅広く貢献してきました。インフラストラクチャー創造企業として、人々の暮らしを支える様々な製品を提供しています。

世の中の主な出来事

設立-1940年代

- 大不況(1873年-1896年)
- 金融恐慌(1927年)
- 日露戦争(1904年-1905年)
- 第二次世界大戦(1939年-1945年)

1950-1960年代

- 朝鮮戦争(1950年-1953年)
- 高度経済成長期(1955年-1973年)

1970-

- 第1次オイルショック
- 第2次オイルショック

1980年代

- (1973年-1974年)
- (1979年-1982年)

1990年代-現在

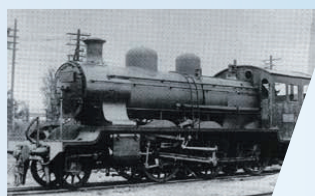
- バブル景気(1986年-1991年)
- リーマンショック(2008年)
- バブル経済の崩壊(1990年代初頭)
- 新型コロナウイルス流行(2020年~2023年)

日本車両の主な出来事

経営安定化のため、
鉄道車両以外にも様々な機械製品等を製造

数々の日本初の製品を世に送り出す

- 設立(1896)
- 不況で注文が激減、機械製品の製造委託契約により経営の安定を図り乗り切る(1898)
- 橋梁事業に本格参入(1926)
- 東証、名証に再上場(1949)



鉄道事業生産の拡大
積極的に新分野を開拓し、兼業進出が本格化

貨車や特殊自動車の製造・販売が本格的に

- 総合機械メーカーへ転換を開始し、兼業への進出が本格化する(1955)



社会のニーズに応え

組織の効率化や

- タンクローリ1,000台突破(1970)
- 農業近代化により産業機械部門やプラント部門が躍進(1972)
- 新幹線1,000両突破(1989)

る製品開発で事業構造が変化

外部企業との連携を強化



事業構造のリストラチャリングを断行、事業基盤の回復

新幹線累計製造両数4,500両を達成

- 創立100年(1996)
- 新幹線2,000両突破(2002)
- 民生用バルクローリ1,000台突破(2006)
- 新幹線3,000両突破(2010)
- 民生用バルクローリ2,000台突破(2019)
- 新幹線4,000両突破(2019)
- 新幹線4,500両突破(2024)



1900年日本初の私有貨車	当社初 1918 蒸気機関車	日本初 1927 地下鉄	1964 0系	1980 200系	1992 300系	2012 リニアL0系	2018 N700S	2022 315系	技術ブランド「N-QUALIS」の立上げ	鉄道車両事業
										鉄道車両／貨車／自動車その他
1926 庄内橋	機関車のボイラー等の製造技術を活用	1955 タンクローリ販売開始	1961 前面展望式パノラマカー	1980 NICTD向け通勤電車	1993 レインボーブリッジ	2019 ML運搬台車	2023 国内最大積載量 LNGタンクセミトレーラ	2024 夢洲大橋		輸送用機器・鉄構事業
			1985 当時世界最大の700t積自走式キャリア							輸送用機器／橋梁
1959 建設機械の製作を開始	世界初 1962 三点式大型杭打機を開発	1987 全回転チューピング装置 RTシリーズの開発	2011 日本最大級アースドリル	2023 障害撤去機DHRシリーズの開発						建設機械事業
										建設機械
1966 カントリーエレベーター	1979 中国宝山プロジェクト	2002 リニモ	2017 先頭車研ぎ装置	2022 トイレットロール包装機						エンジニアリング事業
	宝山製鉄所の構内輸送設備と付帯設備一式を製作									鉄道機械／営農施設／産業機械